

# 動労水戸

## 動労水戸・石井委員長



17万人が集まった7・16反原発集会（東京・代々木公園）



# 7・16反原発17万人の闘いと一体で アメリカで外注化・被曝労働阻止を訴える！

### 国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029・227・6020

FAX 029・227・6291

7月16日の代々木公園の反原発17万人集会と時を同じくして、7月14日から18日の5日間、動労水戸・石井真一委員長が米ILWU（国際港湾倉庫労働組合）ローカル10、ローカル34からの「2012レイバーフェスタ（労働者の祭典）」への参加要請を受け、アメリカ・サンフランシスコを訪問した。動労千葉とILWUの国際連帯闘争は10年以上にわたって継続してきたが、昨年の東日本大震災と福島第一原発事故が起こり、放射能問題がアメリカでも注目されている中で、動労水戸の外注化・被曝労働絶対反対の闘いはアメリカの労働者の熱い共感と支持を得た。

### 青年の組合加入に大拍手！

7月16日の講演では、石井委員長と、同じくアメリカを訪問中の「原発いらない福島の人たち」の椎名千恵子さんが発言した。まず石井委員長が昨年10月の広野に放置された電車の交検に反対してストライキ闘争に立ち上がり交検を阻止した闘い、相馬・原ノ町の運転再開、3月いわき運輸区での被曝労働を拒否する女性労働者に対し乗務を強制した会社の暴挙、現在水郡線においてラジエター清掃による被曝労働が強制されている実態について報告した。また、日本政府による大飯原発再稼働について反対運動が巻き起こり、6月29日20万人が首相官邸を包囲し、ちょうど今17万人が代々木公園に結集して原発反対の闘いが展開されていることを伝えた。集会の中では、昨年10月の闘いで青年労働者が動労水戸に加入し闘ったことについてひととき大きな拍手が巻き起こった。

続いて発言した椎名千恵子さんは切々と福島放射能汚染の現実を語り、深刻な健康被害が出始めていることを訴えた。放射能の影響だと思っ



インターナショナルを合唱（石井委員長の右隣が椎名さん）

症状を福島島の医者にも訴えても取り合ってもらえない現状の中で、とりわけ子どもたちの命と生活を守るために自分たちの診療所が必要だという訴えに、大きな関心と共感が寄せられた。集会参加者は、「JR東日本という大企業が放射線量も測らないということをやっているのか。信じられない」「話を聞いたなら、チエルノブイリと同じではないか」「アメリカでも（山下俊一・福島医大副学長のように）『ニコニコしていれば放射線は怖くない』と言っている学者がいる。全く同じだ。許せない」と語った。

同じく16日の朝には労働組合が運営するラジオ番組に出演し、動労水戸の闘いについてのインタビューを受け、アメリカの労働者・労働組合に対して原発と外注化に対し共に闘おうと呼びかけた。また、裁判所で働く職員のストライキに合流し、現地の労働者との親交を深めた。

### 外注化・非正規職化阻止は国際的課題

日本の労働運動・反原発運動に全世界の労働者が強い期待と関心を寄せている。「日本では大きな集会やデモはあまり起こらない」というイメージが、この間の首相官邸前の抗議行動と7月16日の17万人の反原発集会によってひっくり返っている。とりわけJRの検修・構内業務外注化阻止の闘いは、動労千葉・動労水戸の闘いによって10年以上にわたって計画が阻止されてきたことについて、アメリカ・韓国をはじめ多くの国の労働組合が注目している。民営化・外注化・非正規職化によって労働者が使い捨てにされていく現実が世界共通だ。それとくいに闘うかをめぐって世界中の労働組合が苦闘しながら闘いの方向性を求めている。JRの外注化阻止の闘いは、労働組合が外注化を止めることができるか否かがかかった闘いだ。私たち動労水戸は「労働組合が本気になって闘えば、外注化も強制出向も止められる」ということを必ずや証明したい。残り1か月が本場の勝負だ。共に闘いぬこう！